

教宣部の活動で役員の担い手を育成

私たちの産別労組にはいくつかの職種の労組が加盟していますが、私の働いているバス会社の職場について述べさせていただきます。職種によって基本給は違いますが、同じ職種であれば賃金・労働条件に男女の違いはありませんし、運転士はさらに学歴による違い也没有ありません。



運輸業界にも女性の運転士を見かけるようにはなりましたが、全従業員の8割以上は運転士で、その中の女性の割合は2～3%ほどしかありません。事務員には女性の割合は多いのですが、この産業の特徴として営業所の事務員(運行管理者兼務)には泊りや深夜業務もありますので女性がこの職種に就くことは難しく(安全面の問題)管理職への登用も進んでいません。何よりも早期退職者が多く、会社・組合役員の後継者不足が深刻化しています。

現在、当組合いでは執行委員6人中、女性が1人(ガイド職)、12支部1分会ある中で1支部に女性書記長(事務員)が就いています。三年前に女性執行委員が入ったことにより以前よりも女性からの要望意見が多く寄せられるようになりました。少しでも女性が働きやすい労働環境、労働条件となるよう会社に要求し改善していく、そのことにより多くの女性に選んでいただける企業となることがこの産業で問題となっているドライバー不足解消にもつながります。

私鉄総連には伝統ある各種教宣部があります、当組合にも有志による漫画集団・写真集団があり、趣味的要素が色濃く感じられ男女問わず加入し易い組織であります。しかし、その会員のほとんどは数年後に組合役員の要職に就いています。漫画集団はペンを武器に、写真集団はレンズを通しそれぞれの趣味を生かした教宣活動が労働運動を身近に感じられ、その必要性を肌で感じる事が出来るからであります。教宣活動は地味ではありますが、地道な活動は労働運動の基礎であり、縁の下をさせています。特に漫画集団には女性会員もいますので今後に期待をしていますし、さらにはそれぞれの職種から女性の組合役員を選出していくことが職場環境改善の要となっていきます。

私鉄複合産別労連
執行委員長 大坪 勝利
(連合岩手男女平等推進委員会委員長)